

## 第4回「日本鉄道賞」の受賞者について

### ①「鉄道の利用促進と利便性向上、より環境にやさしい交通の実現に向けて」部門

#### 【日本鉄道賞】

社団法人鉄道貨物協会（東京都千代田区）

「エコレールマーク」

（選考理由）

積極的に鉄道貨物輸送に取り組んでいる商品や企業をエコレールマーク商品・企業として認定・表示する制度を創設し、これまで一般消費者等への浸透が課題とされていた“環境にやさしい鉄道貨物輸送”へのモーダルシフトの取り組みに、消費者と企業が一体的に参加する仕組みを作り上げた。



#### 【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

・広島電鉄株式会社（広島県広島市）

「国産超低床車両の導入による路面電車の利便向上」

（選考理由）

従来使用してきた外国製の超低床車両に関する利用者の要望・意見などを積極的に取り入れ、車両メーカー等と連携して我が国初の完全超低床車両を開発・導入することによって、より利便性が高く、街のシンボルともなる新しい路面電車の実現に取り組んだ。



②「地域活性化に貢献する個性あふれる駅づくり」部門

【日本鉄道賞】

- ・井原鉄道株式会社（岡山県井原市）

「地域主導による駅利用の開発と地域交流事業の促進」

（選考理由）

厳しい経営環境にある鉄道の維持を図るため、地域住民や沿線自治体と一体となって、地域の交流拠点としての駅の多目的利用や駅のモニュメントの設置などのさまざまな取り組みを継続することにより、地域住民のマイレール意識の高揚、鉄道の利用促進などに努めてきた。



【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

- ・三重県いなべ市

「地域密着型の新しい“駅”」

（選考理由）

沿線の地方公共団体が主体となって、駐車場等を兼ね備えた駅前広場やアクセス道路の整備、地域の交流・物販施設の設置など、利用しやすい駅づくりや鉄道の利用促進の取り組みを実践し、鉄道の維持・発展を通じた地域の活性化に積極的に取り組んできた。



【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

・会津鉄道株式会社（福島県会津若松市）

「自然の調和と歴史への誘い」

（選考理由）

沿線地方公共団体と連携しながら、沿線の観光資源を積極的に取り入れ、まちのシンボルとしても注目される特色ある魅力的な駅舎を整備し、観光需要の創出による鉄道の利用促進、地域の活性化に取り組んできた。



### ③表彰選考委員会による特別表彰

今回の第4回「日本鉄道賞」では、テーマ部門ごとの表彰とは別に、応募案件の中から、以下の2件について、今後の鉄道の一つのモデルとなりうる取り組みとして、表彰選考委員会による特別表彰を行うこととなりました。

#### 【日本鉄道賞表彰選考委員会プロジェクト賞】

- ・首都圏新都市鉄道株式会社（東京都台東区）  
独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構（神奈川県横浜市）  
「全てのお客さまに、やさしさと、心地よさ  
～安全性と快適性が貫かれた『つくばエクスプレス』をめざして～」

（選考理由）

自動列車運転装置（ATO）や可動式ホーム柵の整備などを通じた高い安全性を追求するとともに、すべての人に快適なユニバーサルデザインの考え方を取り入れた最新の設備の整備等によって、今後のモデルとなりうる新しい鉄道の姿を提示した。



#### 【日本鉄道賞表彰選考委員会技術賞】

- ・東日本旅客鉄道株式会社（東京都渋谷区）  
「雪に負けない鉄道輸送 ～雪国秋田の現場力が実現！～」

（選考理由）

雪国における冬季の鉄道の安定輸送の確立に向けて、従来とは全く異なる発想に基づく分岐器除雪装置（空気噴射式除雪装置「エアジェット」）を開発・導入し、冬季のポイント不転換による輸送障害発生の抑制に努め、冬季の鉄道利用促進のための基礎を作った。

